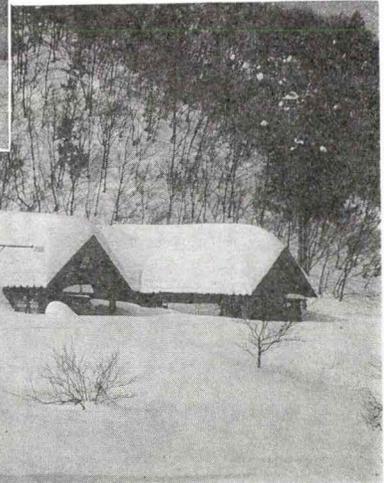
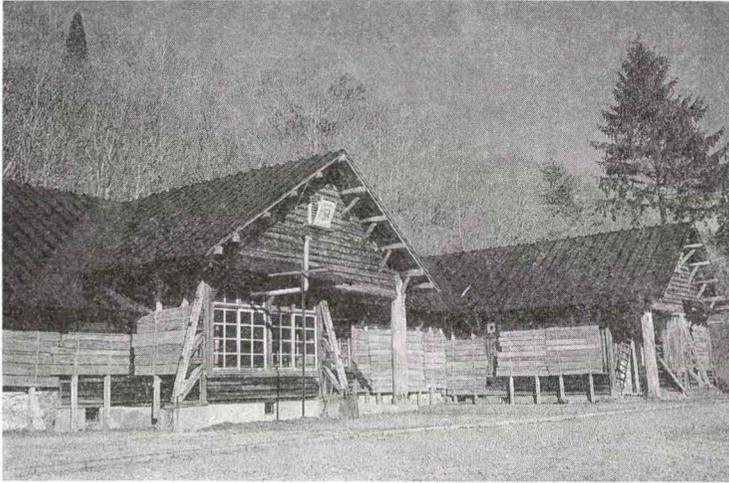


京大広報

No. 340

京都大学広報委員会



芦生演習林の長治谷作業所
 (冬に備えて雪囲い(上), 積雪時(下))
 —関連記事本文 371 ページ—

目次

西島総長, 連合王国訪問……………	370	揺籃期の京都大学	
昭和62年度日本語・日本文化		—創立90周年記念展—の開催……………	372
研修留学生の受け入れ……………	370	<随想>	
部局長の交替等……………	370	大学紛争をめぐって 名誉教授 富田 和久……………	373
<紹介>		<資料>	
農学部・演習林(芦生演習林)……………	371	人事院勧告の取り扱いに関する	
		国立大学協会の要望書……………	374

<大学の動き>

西島総長，連合王国訪問

西島安則総長は、10月8日から連合王国における高等教育・研究機関の調査並びに学術交流に関する意見交換のため同国を訪れ、10月18日帰国した。

今回の主な訪問先は、オックスフォード大学 (University of Oxford), ケンブリッジ大学 (University of Cambridge), サセックス大学 (University of Sussex), 英国学士院 (The Royal Institution of Great Britain), ロンドン大学インペリアルカレッジ (Imperial College of Science and Technology, University of London), ラザフォード-アプルトン研究所 (Rutherford Appleton Laboratory), キャベンディッシュ研究所 (Cavendish Laboratory), 連合王国学長会議 (Committee of Vice-Chancellors and Principals of the Universities of the U.K.), ブリティッシュ・カウンシル (The British Council) であり、各訪問先において高等教育・研究機関の実状とその将来構想等について調査するとともに、学術国際交流に関して意見交換を行った。

また、英国学士院では講演を行った。この連合王国訪問はブリティッシュ・カウンシルの好意によって企画・準備されたものである。

今回の訪問には、神岡十三雄学生課長が同行した。

昭和62年度日本語・日本文化研修
留学生の受け入れ

昭和57年度から、本学では「日本語・日本文化研修留学生制度」(広報 No.240 参照) による留学生

を受け入れているが、昭和62年度は、7か国から16名を受け入れることとなり、10月14日(水)京大会館において総長事務代理長谷川博一理学部長はじめ関係教職員の出席のもとに開講式が行われた。

また、昭和61年度の留学生16名に対する修了式が9月16日(水)京大会館において開催され、修了証書が授与された(写真)。

本年度の研修の概要は次のとおりである。

日本語・日本文化に関する授業計画と授業時間数

	授 業 科 目	授 業 時 間 数		
		第一期 (10~3月)	第二期 (4~9月)	計
日 本 語	読解・口頭表現	時間 30	時間 30	時間 60
	日本語講読	30	30	60
	文章表現	30	30	60
	小 計	90	90	180
日 本 事 情	日本事情(A)	32	26	58
	(ア) 日本の社会に関する概説	(10)		(10)
	(イ) 日本の法政に関する概説	(12)		(12)
	(ウ) 日本の経済に関する概説	(10)		(10)
	(エ) 各分野の諸問題		(26)	(26)
	日本事情(B)	50	42	92
	(イ) 日本文学	(20)	(22)	(42)
(イ) 日本文化・歴史(風土を含む)	(30)	(20)	(50)	
	小 計	82	68	150
特 別 教 育	現代産業及び現代文化に関する参観・研修等	60		60
	伝統産業及び伝統文化に関する見学等		60	60
	特別講義		30	30
	小 計	60	90	150
	日本語強化コース	240	80	320
	合 計	時間 472	時間 328	時間 800

(外国人留学生日本語・日本文化研修実施委員会)

部局長の交替等

原子エネルギー研究所長

櫻井彰原子エネルギー研究所長の任期満了に伴い、その後任として端野朝康原子エネルギー研究所教授(原子炉事故解析研究部門担当)が11月1日任命された。任期は昭和64年10月31日までである。



〈 紹 介 〉

農学部・演習林（芦生演習林）

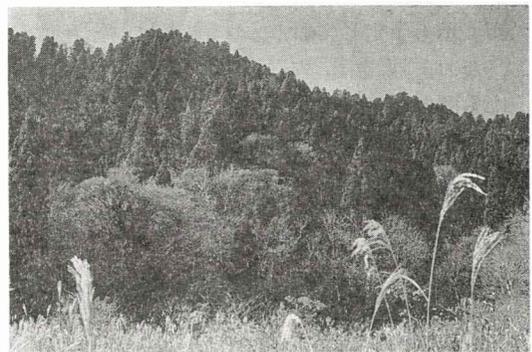
芦生演習林は京都府の北東部、丹波高地の福井、滋賀両県に接した由良川源流に位置し、本学本部から周山經由で約80Km、広河原經由で約60Kmの北桑田郡美山町芦生にある。本演習林は大正10年（1921）に北桑田郡旧知井村字南ほか8か字の共有林の一部に学術研究及び実習に使用するため、99年間の地上権が設定されたもので面積は4,186ha、標高は事務所構内が最も低く海拔355m、三国岳が最も高く959mで、地形は全般的に急峻であるが、由良川最上流部がやや緩やかな準平原状になっている。地質は秩父古生層で基岩は粘板岩、砂岩、珪岩など、土壌は大部分がやや粘質の腐植に富んだ褐色森林土で、海拔800m付近以上の稜線に狭い幅でポドゾル化された土壌がみとめられる。事務所構内の年平均気温（午前9時観測）は11.0℃、年降水量2,371mm、最大積雪深は1～1.5mである。

当地域の森林植生は暖温带林上部から冷温带の下部に属し、太平洋側と日本海側に分布する種が混生しているので植物種数は多く、演習林内で木本植物238種、草本植物414種、シダ植物85種が確認されている。海拔およそ600m付近を境に、低い地域はウラジロガシやコナラが多い暖帯落葉樹林が広がり、尾根にはヒノキ、ゴヨウマツ、モミ、ツガなどの針葉樹がみられる。これより高い地域はブナやミズナラが主になった温帯落葉樹林で、斜面上部にはスギが多く混生し尾根には純林状の林分もみられる。その他これらの林内の上層に多い樹種はカエデ類、シデ類、ミズメ、トチノキ、カツラ、サワグルミなどである。このようなスギ、ブナ、ミズナラが主になった天然林が芦生演習林の最も特徴的な森林で、これらの森林が分布する地域の最大積雪深は2～3mあり、12月から4月末頃まで積雪がみられる。当地のスギは、この地域の地名にちなみ“アシュウスギ”と命名され、その特徴は下枝が枯れあがらないで下垂し、比較的発根性が高く、針葉が柔らかい。林内には積雪により倒伏したスギの枝条が林床に接したところから発根して新しい個体となり、生育するいわゆる伏条性稚樹が多くみられる。これらの

森林の中、下層には尾根部ではソヨゴ、アオハダ、タムシバ、マルバマンサク、リュウブなど、沢部ではハクウンボク、ツリバナ、クロモジ、ヒメコマユミなどが多い。草本植物では南限にあたるとされるニッコウキスゲや分布範囲の狭いアシュウテンナンショウをはじめ、トキワイカリソウ、カキノハグサ、チョウジギク、モウセンゴケなどもみられる。

動物については本州に生息する大型動物の大部分が確認されており、ツキノワグマ、カモシカ、ホンシュウシカ、キツネ、タヌキ、テン、ムササビなどのほか分布上重要なヤマネ、クロホオヒゲコウモリなども確認されている。この地域ではツキノワグマがスギの幹の樹皮を剥ぐいわゆるクマハギが多く、その対策に苦慮している。鳥類は33科101種が確認され、数少ないものとしてアカシヨウビン、コノハズク、クマタカ、オオタカなどが生息しているほか、アオシギ、オシドリ、ハギマシコ、オオミズナギドリなどの飛来も確認されている。

演習林設定以前の森林の取り扱いについて詳しい記録はないが、明治中頃から大正初めにかけて全域にわたりスギやクリが伐採されたといわれている。それ以前には由良川の上流地域に小集落があり、スギやミズメなどを材料にした日用品の製作や、火入れによるかやの生産、下流では薪炭材の伐採や炭焼が行われていたようである。演習林の設定後スギの伐採が行われたが、林相の悪化がみられたため昭和初期に中止し、スギの育成に重点が置かれ広葉樹の伐採とスギ人工林の育成及



スギ天然生林
（大正から昭和初期に広葉樹が伐採
されスギの天然木が育成された）



植樹祭

(毎年6月に教職員全員で苗木を植栽し森林育成への理解を高める)

び椎茸栽培や製炭などが行われた。昭和20年代後半から林道が開設されはじめ、海拔600m以上の森林の択伐と皆伐及び人工林の育成がすすめられ、40年代後半から林相に応じた択伐と小面積皆伐による天然生林の保育と人工林育成作業が細かく組み合わせて行われるようになった。

演習林は主に農学部林学科と林産工学科に関する研究と実習に利用されているが、農芸化学科や理、工学部など他学部の多くの研究者にも利用され、最近森林特に天然林に関する関心が高まり、学内外の多方面の研究や実習、見学などに利用されるようになった。本演習林では教職員18名が試験研究と管理運営にあっている。現在の主な試験研究はスギ・落葉広葉樹天然林の林分構造と更新機構の解析及び施肥法に関する研究で、内容は多岐にわたっている。また貴重な樹木や林分の保存のための調査を行うと共に、実習や研修のための樹木園の設定、樹種の表示、材鑑や資料の展示も行っている。本演習林は試験研究や実習を目的に設定されているが、一般の入林については徒歩に限って許可しているの、自然や森林に関心のある方は利用していただきたい。入林の手続きや情報、資料は演習林本部計画掛(内線6420)、または芦生演習林(07717-7-0321)に照会されたい。(農学部附属演習林)

揺籃期の京都大学—創立90周年記念展—の開催

このたび附属図書館では、京都大学が6月18日に創立90周年を迎えたのを記念し、標記展示会を開催することになりました。

テーマは“明治期の京都大学”とし、本学の創設に至る帝国議会や文部省の動き、四分科大学、初期のエネルギー施設、図書館等の姿をあらゆる資料を展示いたします。

浅井 忠画伯による初代木下広次総長の肖像画の初展示、勅令209号及び同勅令の発布に至る内閣と文部省の文書のカラー写真によるパネル展示も予定しております。

なお、期間中に本展示会に関連した記念講演会も開催しますので、多数ご来場下さい。

記

- 1) 日 時：11月16日(月)～28日(土)
(22, 23日を除く)
午前9時30分～午後5時
- 2) 場 所：京都大学附属図書館展示ホール(3階)
- 3) 記念講演会：
日 時：11月19日(木)

午後2時～3時30分

場 所：京都大学附属図書館
AVホール(3階)

講 師：鯨坂二夫氏(京都大学名誉教授、甲南女子大学学長)

演 題：日本の教育と京都大学

(注) 展示会、講演会とも一般公開、入場無料

<教養部>

教養部においても、舎密局の創立以来、第三高等学校に至る資料を中心とした展示会が開催されます。多数ご来場されるようご案内します。

記

- 1) 日 時：11月16日(月)～12月4日(金)
(日曜・祝日を除く)
午前9時～午後4時45分(土曜日は2時45分、ただし、21日は12時まで)
- 2) 場 所：教養部図書館1階
- 3) 名 称：舎密局から三高へ
(附属図書館)

